



光琳
 新

功成り方退り
 竹曇蒼々苔腐と蟹す

曉窓

中よりのみくわとささき香ふ匂ふ

龜乃よも此もあゝあゝの年一

中月には何れも免前なる福もふ

あそこの釜のあふれそふく

黙御々更夫さかり乃も能自

移を着せそも標はなつん

下歌

堀き一河の大和くちもそ一免

山里も住まいたちやん梅

中へ風も一らね顔まり梅の子

そとささき飛也そも一春の風

字とれ方に標をゆつて能無しの

壯山
 文起
 漸高雲
 漸風
 蟹岬

曉窓

又記

漸高雲

街風

蟹岬

壯山

夜つら一妻をよそんと一の聲
 と我を難者ほくはそはあうらむ
 望の夜もすくすく白一 菘の梅

明徳堂の拙筆 意高 存業



65 竹曇蒼々還曆賀摺